

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°37 シャトー・ド・プラド

生産地方：ボルドー

再入荷 1 種類&新商品 1 種類♪

AC コート・ド・ボルドー・カスティヨン 2020 (赤) ☆再入荷☆

2020 年は、2019 年同様に太陽と収量に恵まれた当たり年。ブドウの完熟スピードも早く、いつもよりも早めに収穫を開始したにもかかわらずアルコール度数は 14.5%まで上がった。出来上がったワインは、濃厚かつ口当たりしなやかで、コクのある黒い果実の凝縮味が口いっぱいに広がる！ベルナール曰く、2020 年は 2015 年とスタイルが似ているとのこと。アントシアニンの抽出が良く色はいつもよりも深い、タンニンはキメ細かくしなやかで、塩気のあるしっかりとしたミネラルが長熟を予感させる！今飲むのであれば、ガッツリ牛の赤肉ステーキなどに合わせるのがベスト！

AC コート・ド・ボルドー・カスティヨン 2022 (赤) 3L バッグ ☆新商品☆

本邦初リリースとなるプラドの 3L バッグ♪4 本分のワインが自立型のバッグに♪しかも取っ手付き♪プラドの赤はヴァンクүүлが取り扱うワインの中では比較的味に安定感があり酸化にも強く、また在庫のお問い合わせも良くいただく隠れた人気商品でもある。プラド自身、容量の大きい袋型の商品も地元で販売している実績もあり品質管理については自信があるのとのこと、今回ボトルと一緒に試験的に 3L バッグにもチャレンジしてみた。3 リットル等大容量のワインと言えば、箱型のバッグインボックス (BIB) がお馴染みであるが、今回フランス製のポーチ型の袋 (BAG'INNOVO) を採用した。自立型でテーブルに置くとでき、取っ手もついていてどこにでも持ち運びが便利♪またコンパクト設計のため冷蔵庫やセラーでの収納にもスペースをそこまで取らない。ボトル 4 本分もワインが入っているのに価格は 3 本分と、お財布にも優しいのも魅力。

2022 年は、ボルドーが広範に渡る甚大な雹の被害に遭った年。だが、プラドは雹を免れたおかげで、2020 年のような太陽と収量に恵まれた当たり年となった。出来上がったワインはリッチでコクと完熟した果実を感じるふくよかな味に仕上がっている！また、タンクでの 2 年熟成によりタンニンがきれいにこなれているため、口当たりがとてもまろやか！お肉やチーズなどをあてに気軽に飲みたいワインだ！冷やしてもタンニンの収斂味が目立たないので、冷蔵庫にポーチを入れたままサービスするのもよし♪是非お試しください



ミレジム情報

2020 年は、2019 年同様に太陽と収量に恵まれた当たり年。品質的にはアントシアニンが多くブドウがパワフルな年だった。春の遅霜はなく、4 月から天候は初夏の様子を呈していたため、ブドウの芽吹きがとても早かった。だが冬のスタートから雨が少なく、6 月に何度かにわか雨があったが、それでも畑は乾燥気味だった。開花時にちょうどミルデューが猛威を振るい始めていたため花が流れてしまうことが心配だったが、どうにか切り抜けることができた。6 月終わってからさらに水不足が深刻になり、加えて 7 月から 8 月中旬にかけて続いた猛暑と日照りによりブドウがレーズンのように萎れ気味になってしまった。だが、8 月の終わってから気温が下がり始め、9 月初めには雨が戻ってきたおかげで、再び張りのあるブドウに戻った。9 月は例年通り日中夜の寒暖の差のある理想的な天候に戻り、ブドウは一気に完熟に向かった。最終的に黒々と張りのある、果汁を多く含んだブドウが収穫できた。

2022 年は、2020 年同様に太陽と収量に恵まれた当たり年だった。だが、一方でこの年はメドックからコニャックにかけて数千ヘクタールのブドウ畑が雹の被害に遭ったボルドーにとっての試練の年でもあった。冬は暖冬で雨も多かった。春の遅霜はなく芽吹きも順調だった。4 月までは適度に雨が降っていたのだが、5 月に入ると雨がぱつたりと止み日照りが 8 月まで続いた。途中 6 月 21 日未明にガロンヌ川からジロンド川を沿うように北 100 km に渡り大粒の雹が襲った。また、7 月には極度の乾燥によりメドック南からアルカションに広がる森が 1 ヶ月にも及ぶ山火事の災害に遭い、メドック地方は雹と山火事により甚大な損害を被った。幸い、プラドは雹の被害がなく、また冬から春先に降った雨の貯蓄のおかげでブドウは極度の日照りをどうにか乗り切ることができた。9 月に入ると気温は落ち着き、再び雨にも恵まれ、ブドウは良いコンディションのまま完熟に向かうことができた。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

2023 年、2024 年と 2 年連続に渡りミルデューの深刻な被害に遭ったプラド。その原因に荒廃農地の放棄によるミルデューの増殖があるというのは以前述べたが、実際に荒廃農地がどのような状態なのか、今回プラドに頼んで案内してもらった。これはプラドの畑から道路を挟んですぐのところにある荒廃農地。(写真①) もう何年も放置されていることもあり、畑というよりは藪という言葉がふさわしいくらいに荒れている。この畑のオーナーは中国人の女性で、カーヴと畑に莫大な資金を投入して鳴り物入りでボルドーに参入してきたのだが、コロナにより経営がうまく行かず、畑を放置したまま姿を消してしまったのだそうだ。ちなみに、もう何年も前になるがベルナルもドメーヌ開設当初は隣近所のよしみから剪定を何度か手伝ったことがあるそうだ。その畑が今となっては手も付けられないくらいに荒れ果て、病気の温床になっているというのは何とも皮肉なことだ。「中国人の女性オーナーも無責任だが、それよりも放置を許している自治体に怒りを覚える」と憤りをあらわにするベルナル。自治体の説明では、私有物ゆえ完全に畑を放棄するという所有者の署名がなければ何も対処できないのだそうだ。

(写真②) は荒廃農地側から見たプラドの畑。道路を挟んで隣同士なのに畑の状態は雲泥の差だ。



(写真①) ブドウの木が見えないくらいに荒廃した畑

(写真②) 手入れの良く行き届いたプラドの畑



これだけ丁寧に畑仕事を行なっても、病気の蔓延により毎年収量を減らすどころか 2023 年のようにブドウが全滅してしまうのは、確かにやるせないし怒りが沸くのも当然だ。ベルナールが言うには、ここカステイオンはボルドー不況と生産者の高齢化により今後継者不足が深刻な問題となっているようだ。彼の畑は数年前まで 30 代の息子ロマンが手伝っていたが、息子の妻の実家のシャトーで働くために離れてしまい、更に現在はより安定した大手シャトーに転職してしまったそうだ。ベルナール自身も年齢 60 を過ぎ、あと数年でシャトーを閉めることも視野に入っていて、現在跡継ぎのいないシャトーを今後どう維持していくのかという問題を抱えている。(写真③) そんな厳しい状況の中、また新たに浮上しているのが外国資本の参入だ。彼が言うには、ここ近年中国に変わりカステイオンに新しくトルコやルーマニアなどの東欧の国の資本が大規模に入って来ているのだそうだ。実際にベルナールの畑もトルコ人から買収の話が最近あったそうだ。「数年後には私のシャトーもトルコの資本家がオーナーになっているかもしれない。ただし、その時畑はビオではなくなる可能性が高いが…」と彼は笑いながら冗談とも本気ともつかないことをつぶやいた。ついでに、トルコ人との話の流れで彼は向かいの中国人の荒廃農地を提案してみたそうだが、「荒廃農地には興味がない」と一蹴されたそうだ。今回は何とも歯痒さばかりが残る話を聞かされたほろ苦い訪問だった。



(写真③) 深刻な面持ちで後継者問題を語るベルナール

(2025.2.27.ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ